

News Release

日本をおいしくする

SHOWA

昭和産業株式会社

経営企画部

コーポレート・コミュニケーション室

〒101-8521 東京都千代田区内神田2丁目2番1号
(鎌倉河岸ビル)

TEL. 03(3257)2042 FAX. 03(3257)2097

<http://www.showa-sangyo.co.jp>

平成28年2月3日

昭和産業株式会社 平成28年3月期第3四半期決算の発表について

昭和産業株式会社（社長：岡田茂）の平成28年3月期第3四半期連結決算は、売上高1,885億97百万円、経常利益76億57百万円となりました。平成28年3月期通期連結業績予想については、売上高2,550億円、経常利益88億円を見込んでおります。

【平成28年3月期第3四半期連結決算】

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、政府による積極的な財政出動と日本銀行との協調によるデフレ脱却政策および経済成長戦略が実行されておりますが、個人消費の低迷と輸出の鈍化がみられるようになりました。また、中国経済の減速や世界的な地政学リスクへの懸念など、世界経済の成長に対する下振れリスクが増大する状況が続きました。

食品業界においては、原材料価格の変動などによる製品価格の改定も発表されており、依然として厳しい経営環境が続いております。また、平成27年10月に大筋合意したTPP（環太平洋経済連携協定）は、当社グループを含む食品産業全体への影響が想定されることから、引き続き動向を注視してまいります。

このような状況の中、当社グループは、2012年（平成24年）よりスタートした「中期経営計画12-16」が4年目に入り、最終年度の目標である連結売上高2,680億円、連結営業利益、連結経常利益ともに100億円の達成に向け、6つの基本戦略「①基盤事業の持続的成長」「②新たな分野への挑戦」「③海外事業の強化」「④効率化の推進」「⑤グループ連携の強化」「⑥CSR経営の推進」の各種施策の推進に努めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間においては、引き続き「①基盤事業の持続的成長」の基礎となる販売物量の拡大を推し進めるとともに、原材料価格等に見合った製品価格の適正化に努めてまいりました。

研究開発においては、社内各所に分散していた「研究」「開発」「技術」の活動拠点を一か所に集約した「RD&Eセンター」（千葉県船橋市）の建設に着手いたしました。当社の強みである多様な穀物資源を生かした総合力をさらに強化するとともに、お客様とのコミュニケーションの場として、昭和産業グループならではのソリューションをご提供することを目指してまいります。

また、当社100%子会社であるグランソールベーカリー(株)が運営を行う、(株)セブン-イレブン・ジャパン向けの「冷凍パン生地工場」の建設にも着手いたしました。

「④効率化の推進」においては、鹿島工場等生産部門を中心にローコストオペレーションを推進いたしました。

一方、発送費の増加等により販売費及び一般管理費が、前年同期に比べ833百万円増加いたしました。これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は188,597百万円と前年同期に比べ2,149百万円（1.2%）の増収となりました。営業利益は6,865百万円と前年同期に比べ437百万円（6.8%）の増益、経常利益は7,657百万円と前年同期に比べ539百万円（7.6%）の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,458百万円と前年同期に比べ765百万円（16.3%）の増益となりました。

【平成28年3月期連結業績予想】

第4四半期以降も為替や穀物の相場動向など、当社グループを取り巻く経営環境は不透明な状況が続くものと予想されますが、平成27年5月14日に公表した平成28年3月期（平成27年4月1日～平成28年3月31日）の連結業績予想につきまして変更はありません。

以上

この件に関する報道関係の方からのお問い合わせ
昭和産業株式会社 経営企画部
コーポレート・コミュニケーション室（久慈・久田）まで
TEL：03-3257-2042
FAX：03-3257-2097